データ抽出：医事・健診
コメント作成：脳神経内科

脳梗塞患者に対するtPA使用率（脳神経内科）

目的

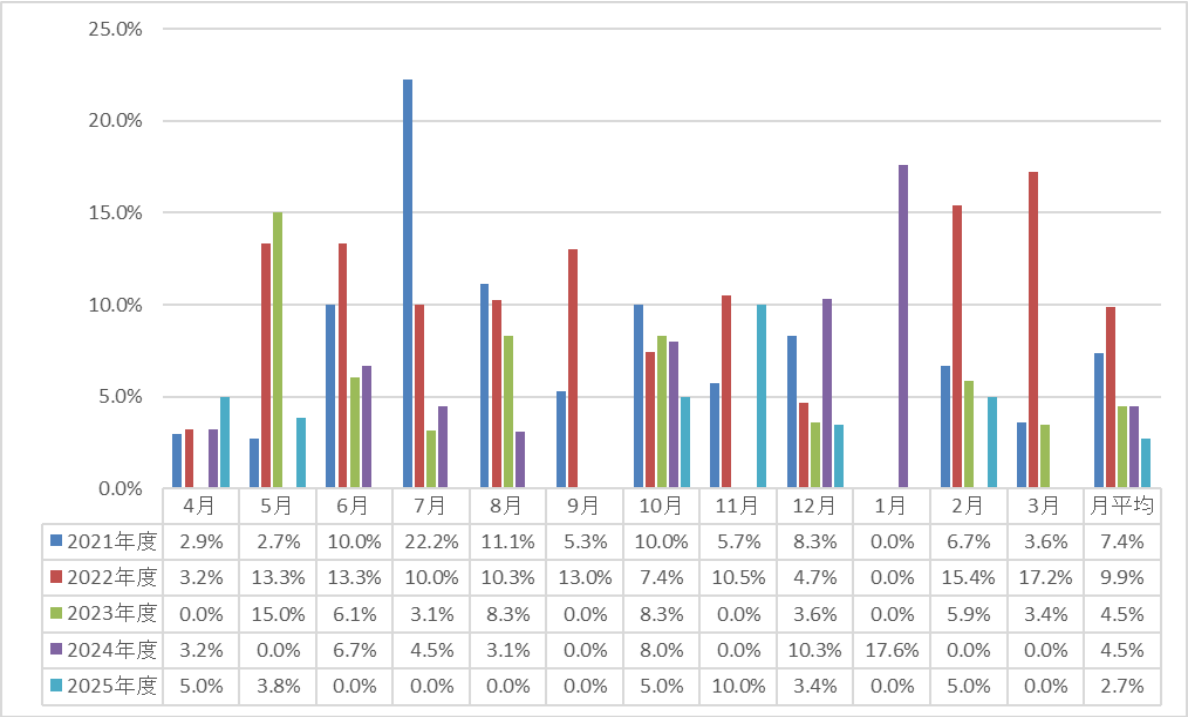
超急性期脳梗塞の治療（発症後24時間）の指針となるtPAの実施状況を示す。

分母

脳梗塞の患者の退院数

分子

脳梗塞の退院患者の内、入院中にtPAを使用した患者数



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
2021年度	2.9%	2.7%	10.0%	22.2%	11.1%	5.3%	10.0%	5.7%	8.3%	0.0%	6.7%	3.6%	7.4%
2022年度	3.2%	13.3%	13.3%	10.0%	10.3%	13.0%	7.4%	10.5%	4.7%	0.0%	15.4%	17.2%	9.9%
2023年度	0.0%	15.0%	6.1%	3.1%	8.3%	0.0%	8.3%	0.0%	3.6%	0.0%	5.9%	3.4%	4.5%
2024年度	3.2%	0.0%	6.7%	4.5%	3.1%	0.0%	8.0%	0.0%	10.3%	17.6%	0.0%	0.0%	4.5%
2025年度	5.0%	3.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.0%	10.0%	3.4%	0.0%	5.0%	0.0%	2.7%

データ抽出内容

①各年度の月平均退院患者数　2020年度n＝29人　2021年度n＝28人　2022年度n＝28人 2023年度n＝25人　2024年度n＝25人、2025年度n＝20人
②患者数は、一連の入院から退院をもって1とカウントとする。
③010060「脳梗塞」の診断群分類の患者を対象とし、内、入院中にtPA（当院採用クリアクター静注用）を使用した患者をカウントする。よって、併存症として脳梗塞がある患者は対象としない。

データ分析コメント

2025年度も救急搬送数の減少により、tPA投与患者数の減少がさらに進んでいる。tPAに関しては、発症4.5時間以内に投与を開始しなければならないが、到着時には既に投与可能時刻を過ぎている症例も多い。早期発見、早期搬送のためには、市民、救急隊への啓蒙活動も重要である。機能評価係数Ⅱの改善による経営安定化、診療機能の集約化による救急・急性期対応の強化を目的に2026年度より脳卒中センターが設置され、活動中である。